



平成 23 年 2 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社ジー・テイスト  
 代表者名 代表取締役社長 稲吉 史泰  
 ( J A S D A Q ・ コード番号 2694 )  
 問合せ先 常務取締役 川上 一郎  
 ( TEL. 022 - 237 - 5566 )

### 平成 23 年 3 月期通期業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

平成 22 年 11 月 12 日付当社「平成 23 年 3 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」にて発表いたしました業績予想を下記の通り修正いたします。

また、特別損失の計上についても併せてお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成 23 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	17,749	△59	118	△380	△6.31
今回発表予想 (B)	17,662	△77	73	△980	△16.25
増 減 額 (B-A)	△86	△18	△44	△599	△9.94
増 減 率 (%)	△0.5	—	△37.6	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 3 月期)	15,966	263	401	292	6.69

#### 2. 修正理由

当第 3 四半期累計期間におけるわが国経済は緩やかに回復しつつあるものの、景気の先行きに対する不透明感から個人消費の回復は鈍く、引き続き厳しい環境で推移しております。

このような状況下、寿司事業においては、お客様の来店動機を高める目的で季節毎に「逸品紀行」「厳選 旨味祭」「秋の旬鮮市」「冬の旨味祭」等の期間限定フェア等を開催したほか、グランドメニューの変更により、旬の食材をお客様に提供することにより、来店客数は増加傾向に転じましたが、客単価は弱含みで推移した結果、既存店売上高は 14.2%減少いたしました。

居酒屋等事業においては、売上高に対する管理コストの削減、事業上のシナジー効果を目的として、平成 22 年 5 月 27 日にフード インクルーヴ株式会社を吸収合併することを決議し、同年 7 月 1 日に吸収合併しました。その結果、12 店舗、FC 加盟店 203 店舗増加したほか、4 店舗を新規出店しました。また不採算店舗 13 店舗を閉店、さらに 6 店舗で業態を変更し業績改善を進めてまいりました。

教育事業においては、FC 加盟店より 2 校舎譲受け、また英会話事業のジオス校舎を 6 校舎譲受け、そのうち 5 校舎を NOVA x GEOS としてリニューアルし、1 校舎を NOVA に併合した結果、当第

3 四半期累計期間末の教育事業直営校舎は 41 校舎となりました。

以上の結果、フード インクルーヴ株式会社との合併による店舗の増加はあったものの、不採算店舗の撤退及び既存店売り上げの減少により、売上高計画が未達となりました。一方、売上原価、販売管理費及び一般管理費については、合併効果による削減は見られたものの、売上高の減少分を吸収するには至らず、売上高 17,662 百万円（前回予想：17,749 百万円）、営業損失 77 百万円（前回予想：59 百万円の損失）、経常利益 73 百万円（前回予想：118 百万円）、当期純損失は、特別損失 134 百万円及び法人税等調整額 289 百万円を計上したことにより 980 百万円（前回予想：380 百万円の純損失）となり、通期業績見通しを下回る見通しです。

### 3. 特別損失の計上

当事業年度においては、長期的な景況感の低迷の影響、競争が激化したことなど原因で店舗の収益性が悪化いたしました結果、不採算店舗の閉店に伴う固定資産売却、閉店損失引当金繰入、減損損失及び投資有価証券売却に伴う投資有価証券売却損を計上しております。

以上の事由から当第 3 四半期会計期間において特別損失として 134 百万円計上いたしましたので、内訳をお知らせいたします。

- ① 閉店損失引当金繰入額：83 百万円
- ② 減 損 損 失：35 百万円
- ③ 固 定 資 産 売 却 損：11 百万円
- ④ 投資有価証券売却損：3 百万円
- ⑤ そ の 他：2 百万円

以 上